

平成 23 年 4 月
九州ブロック幹事
(福岡県)

九州ブロック支援活動報告について

(1) 支援先自治体及び状況

支援先自治体は、宮城県白石市、亶理町であった。

状況について、白石市は内陸部に位置しており、津波による被害は見受けられなかったが、地震による被害（道路舗装の陥没、人孔の隆起など）が市内全域で見受けられた。一方、亶理町は太平洋沿岸に位置しており、海沿いは津波による被害（家屋倒壊など）が甚大であったが、今回の調査対象区域は、津波による被害が甚大な区域は対象外であり、調査区域においては地震による人孔の被害は殆ど見受けられなかった。

(2) 支援人数

支援人数は、福岡県 3 班、長崎県 1 班、熊本県 1 班の計 5 班体制で 20 人であった。

班名	県名	市町村名	支援人数		
			計	職種	
1 班	福岡県	—	2	土木 1	設備 1
	福岡県	大牟田市	2	土木 1	設備 1
2 班	福岡県	飯塚市	3	土木 3	
	福岡県	大野城市	1	土木 1	
3 班	福岡県	直方市	2	土木 2	
	福岡県	春日市	2	土木 2	
4 班	長崎県	—	1	土木 1	
	長崎県	長崎市	3	土木 2	設備 1
5 班	熊本県	—	1	土木 1	
	熊本県	熊本市	2	土木 2	
	熊本県	八代市	1	土木 1	
計			20	土木 17	設備 3

（３）支援期間

支援期間は、亶理町２日間（３月３０日～３１日）、白石市２日間（４月１日～２日）、計４日間であった。

3/28 (月)	3/29 (火)	3/30 (水)	3/31 (木)	4/1 (金)	4/2 (土)	4/3 (日)	4/4 (月)	4/5 (火)
各自治体を出発	宮城県に到着	一次調査 (亶理町)	一次調査 (亶理町)	一次調査 (白石市)	一次調査 (白石市)	宮城県を出発	移動	各自治体に到着

（４）下水道管渠の状況

白石市においては、人孔の隆起により、人孔と下水道管渠の接続部が寸断され、汚水が滞留している状況が市内全域で見受けられた。

一方、亶理町においては、下水道管渠が被災している状況は殆ど見受けられなかった。

（５）一次調査の活動状況

月日	支援先	活動状況
3月30日	亶理町	午前、宮城県庁にて打合せ後、亶理町役場にて作業内容の確認。 午後、5班に分かれ0次調査（車で調査対象範囲を確認）を行った後、1次調査を開始。亶理町での1次調査は幹線管渠のみが対象で、町が準備した下水道台帳・チェックシートをもとに、マンホールを開閉し、路上より目視にて点検を行う。 作業量は約8km。
3月31日	亶理町	午前、現地調査が完了。 午後、町役場にてデータ整理を行い、町へ調査結果を報告。 作業量は約12km（亶理町累計約20km）。
4月1日	白石市	午前、白石市役所にて作業内容の確認を行い、5班に分かれ0次調査を行った後、1次調査を開始。 午後、引き続き1次調査を行い、夕方、データ整理に移行。 作業量は約12km。
4月2日	白石市	午前、現地調査が完了。 午後、市役所にてデータ整理を行い、市へ調査結果を報告。 作業量は約6km（白石市累計約18km）。

【活動状況の写真】



3月30日 亶理町での管渠一次調査状況



3月30日 亶理町での管渠一次調査状況



3月31日 亶理町での管渠一次調査状況



3月31日 亶理町での管渠一次調査状況



4月1日 白石市での管渠一次調査状況



4月1日 白石市での管渠一次調査状況



4月2日 白石市での管渠一次調査状況

4月2日 白石市水道事業所にて

(6) 支援活動を通しての感想

都市施設のライフラインである下水道は我々の生活に欠かすことができない施設である。この施設が東北地方太平洋沖地震によって大規模な被災を受け、被災地の人々が生活に不便を強いられていることを、支援活動を通して実感した。私たちの支援活動が1日でも早い被災地の復興の役に立てればと思うところである。

また、現地調査にあたり、迅速な点検を行うには下水道台帳が必要不可欠であることや、地震対策として人孔部での流入・流出管口に可撓性のあるものを設置する必要があることを改めて実感した。今回の支援活動で得た貴重な体験を、今後の業務に活かしたい。